

Amazon E-Commerce Service バージョン 3.0

からバージョン 4.0 への移行ガイド

ECS 3.0 開発者向け資料

Copyright © 2007 Amazon Web Services LLC or its affiliates.

AMAZON および AMAZON.COM は、Amazon.com, Inc. およびその関連会社の登録商標です。その他の全ての商標は、それぞれの権利帰属者の所有物です。

Table of Contents

はじめに

- 1 ECS 4.0 のメリット
- 2 ECS 4.0 における新機能
 - 2.1 アクセス・キーID
 - 2.2 レスポンスグループ
 - 2.3 API バージョン
 - 2.4 オペレーション
 - 2.5 バッチおよびマルチオペレーションリクエスト
 - 2.6 ショッピングカートに関する変更
 - 2.7 レスポンスフォーマット
 - 2.8 アソシエイトタグ
 - 2.9 エラー
 - 2.10 リクエストの作成
 - 2.11 サービス・エンドポイント
- 3 主要パラメータ対応表
- 4 オペレーション対応表
- 5 移行に関する追加情報について

はじめに

Amazon E コマース・サービス(ECS)のバージョン 3.0 (以下、ECS 3.0 と表記) は、2003 年から提供されていますが、このバージョンは、このたび廃止されることとなりました。2008 年 3 月 31 日以降は、ECS は ECS 3.0 のリクエスト処理を行わないこととなりますので、全ての ECS を利用した Web サイトとアプリケーションが、ECS バージョン 4.0 (以下、ECS 4.0 と表記) のリクエストを送信し、ECS 4.0 のレスポンスを処理できるように、その期限までに変更していただく必要があります。このガイドは、ECS 3.0 を利用した Web サイトとアプリケーションからの ECS 4.0 への移行をより円滑に行えるようサポートするために作成されました。

このガイドでは、ECS 3.0 と ECS 4.0 の主な概念的、プログラムの違いを明らかにし、ECS 4.0 を使用してどのように ECS 3.0 で使用されていた機能を移行するかをご案内します。このガイドでは、ECS 4.0 のうち、基本的な部分のみをご紹介します。ECS 4.0 を十分に理解するには、<http://aws.amazon.com/resources> 以下、Technical Documentation カテゴリ内に格納されている、最新の Amazon E-Commerce Service Developer Guide (英語) をお読みください。

1. ECS 4.0 のメリット

ECS 4.0 では、ECS 3.0 と比べて、より多くの有意義なメリットをご提供しています。

質・量ともに大幅に改善されたデータ

ECS 4.0 では、データの正確性が劇的に改善し、より多くの保存データへのアクセスを可能にする豊富なレスポンスグループ、オペレーションおよびパラメータを提供しています。

向上した機能性

ECS 4.0 は ECS 3.0 よりもはるかに多い機能を提供しています。

BrowseNodeLookup, CustomerContentLookup および ListSearch のような新しいオペレーションにより、Amazon で取り扱いのある商品のカテゴリ情報の収集、カスタマーレビュー、プロフィールを含むお客様が入力されたコンテンツの抽出 (2007 年 7 月現在、US のみ)、ウィッシュリスト

の検索などを行うことができます。このような機能は、ECS 3.0 では提供されておりません

将来に向けての強力なサポート

ECS チームは ECS 4.0 に対する強力なサポート体制を整備し、積極的な開発を行っています。ECS におけるすべての新機能およびサポートは、ECS 4.0 に対してのみ行われています。

2. ECS 4.0 における新機能

以下では、ECS 4.0 でご提供しているたくさんの新機能についてご説明しています。

2.1 アクセスキーID

ECS 3.0 では、リクエストを行う際に有効なディベロッパー・トークンが必要でした (REST では dev-t, SOAP では devtag として処理されていました)。ECS 4.0 では、セキュリティを高めるため、アクセスキーID が必要となります。

アクセスキーID を既に取得されている場合もあります。ご自分のアクセスキーID を確認するには、

まず <http://aws.amazon.com> へアクセスしてください。

ログイン後、ページ右上に表示される Your Web Services Account をポイントしてください。

ドロップダウンメニューに表示される AWS Access Identifiers をクリックしてください。

ECS 3.0 への登録をされた時期により、アクセスキーID を取得するための AWS への再登録をしていただく必要が出てくる可能性があります。再登録が必要な場合は、お手数ですが、<http://aws.amazon.com/resources> より、再登録の手続きをお願いいたします。

2.2 レスポンスグループ

おそらく、ECS 3.0 と ECS 4.0 の最大の違いは、レスポンスにどういった情報を返すかを指定する機能ではないでしょうか。ECS 3.0 では、lite と heavy という 2 つのオプションしかありませんでした。ECS 4.0 では、これよりはるか

に多く、また詳細な設定が可能になりました。リクエストの内容により、商品画像、販売情報、トップセラー、カスタマーレビューなどの情報を返す（あるいは返さない）指定が可能です。

詳細な情報については、

<http://docs.amazonwebservices.com/AWSEcommerceService/4-0/ApiReference/ResponseGroupsArticle.html>

（英語）をご参照ください。

2.3 API バージョン

ECS 3.0 の API は、開発者側で ECS の新しいバージョンを使用するか否かの選択ができるメカニズムがありませんでした。この問題は、ECS 4.0 において、それぞれのシステム変更に対してバージョン情報を付加することにより解決されました。バージョン情報は日付で表示されており、例えば、2006-09-11 といったかたちで表示されます。これらの日付は、関連する WSDL が公開された日付と関連しています。よって、既に公開されている WSDL には、新機能は追加されないということになります。新機能は、新しい WSDL のバージョンにおいてのみ実装されています。

バージョン情報の追加により、開発者側で特定のバージョンに対して継続的にコーディングを行うことが可能になりました。

Version パラメータを使用して、特定の WSDL バージョンを指定することにより、ECS はそのリクエストに対しては必ず指定された WSDL バージョンを使用して処理を行うこととなります。例えば、2006-09-11 のバージョンでは、**Offer** データに関するいくつかの機能拡張を行っているため、これらのデータを正しく取得するためには、WSDL バージョンを 2006-09-11 またはそれ以降のものに指定する必要があります。

ECS チームでは、必要なデータをより確実に取得いただける方法である、**Version** パラメータのご利用を強くお勧めします。

詳細な情報については、

<http://docs.amazonwebservices.com/AWSEcommerceService/2007-01-17/ApiReference/ServiceVersioningArticle.html>

（英語）をご参照ください。

2.4 オペレーション

ECS 4.0 では、オペレーションの数は劇的に減少しました。しかしながら、各オペレーションの機能はよりいっそう強力なものとなっています。

オペレーションは、ECS 4.0 では、ECS 3.0 とは若干異なって使用されています。ECS 4.0 の各リクエストは、例えば、`Operation=ItemSearch` というように、`Operation` パラメータを使用して、使用するオペレーションを指定する必要があります。全ての ECS 4.0 オペレーションでは、正常に機能させるために何らかのパラメータ指定が必要となります。また、ほとんどの ECS 4.0 オペレーションでは、その動作を調整するための任意パラメータの使用も可能です。

本ガイド後半でご紹介している“**オペレーション対応表**”では、ECS 3.0 と ECS 4.0 オペレーションの対応表をご確認いただけます。

2.5 バッチおよびマルチオペレーションリクエスト

バッチおよびマルチオペレーションリクエストの機能を利用して、複数のリクエストを 1 つのコールにまとめることが可能です。例えば、1 回のリクエストで以下のように、2 つのオペレーションまでコールすることができます。

`Operation=ItemLookup,ItemSearch`

それとは別に、1 つの `ItemLookup` リクエストを利用して、複数の商品情報を取得することも可能です。

詳細な情報については、

<http://docs.amazonwebservices.com/AWSEcommerceService/4-0/PgCombiningOperations.html>

(英語) をご参照ください。

2.6 ショッピングカートに関する変更

Web サイトを訪れるお客様に、より簡単にショッピングを行っていただけるよう、ECS の機能を利用して、ショッピングカートを作成し、商品をカートに追加することが可能です。ショッピングカートは、一時データとして Amazon サーバに保存されます。ECS 4.0 では、ショッピングカートに商品を追加したり、カート内の商品数を変更したりすることを可能にする、数多くの API を導入しています。

詳細な情報については、

<http://docs.amazonwebservices.com/AWSEcommerceService/2007-01-17/PgUsingShoppingCartArticle.html>

(英語) をご参照ください。

2.7 レスポンスフォーマット

ECS 3.0 において、REST を使用したアクセスを行う場合、レスポンスが XML または外部 XSLT を適用したフォーマットで返すかを指定するために、f パラメータを使用する必要がありました。ECS 4.0 では、f パラメータに代わり、XSLT ファイルのロケーションを指定できる Style パラメータが新たに使用できるようになりました。XSLT を使用しない場合、Style パラメータを使用する必要はありません。

レスポンスとして MIME コンテントタイプを返したい場合は、ContentType パラメータを使用することができます。このパラメータは、ECS 3.0 では ct パラメータとして使用されていました。ContentType パラメータが設定されない場合、返されるコンテンツはデフォルト値である“text/xml”となります。

詳細な情報については、

<http://docs.amazonwebservices.com/AWSEcommerceService/4-0/PgXsltArticle.html>

(英語) をご参照ください。

2.8 アソシエイトタグ

ECS 4.0 における AssociateTag パラメータは、ECS 3.0 で使用されていた t(REST) および tag(SOAP) に代わり、アソシエイトタグを指定するために使用されます。アソシエイトとして、Amazon アソシエイト・プログラムから紹介料を受け取るためには、リクエスト内に AssociateTag パラメータを入れる必要があります。Amazon アソシエイト・プログラムへの登録ならびにアソシエイト・タグの作成については、<http://www.amazon.co.jp/associates> へアクセスの上、登録手続きをお願いします。

2.9 エラー

ECS 4.0 におけるエラーメッセージは、ECS 3.0 で表示されていたものと比べて、よりわかりやすいものとなりました。その結果、ECS 4.0 ではトラブルシ

ューティングがより容易となっています。全ての ECS 4.0 のエラーは、エラーコードならびに問題の内容を説明したエラーメッセージを表示しており、エラーコードは ECS をご提供している各地域共通のものを使用しています。エラーメッセージについては、各地域に対応した言語で表示されています。

ECS 4.0 の完全なエラーコードおよびエラーメッセージのリストは、Amazon E-Commerce Service Developer Guide（英語）に掲載されています。詳細な情報については、

<http://docs.amazonwebservices.com/AWSEcommerceService/2007-01-17/ApiReference/ErrorCodesAndMessages.html>（英語）をご参照ください。

2.10 リクエストの作成

ECS 3.0 同様、ECS 4.0 は REST ならびに SOAP を完全にサポートしています。しかし、ECS 3.0 とは違い、REST と SOAP のパラメータ名とレスポンス値に違いはなく、同じ値が返されることとなります。

詳細な情報については、

<http://docs.amazonwebservices.com/AWSEcommerceService/2007-01-17/PgOperationRequests.html>

（英語）をご参照ください。

2.11 サービス・エンドポイント

ECS 3.0 を使用したリクエストでは、`locale` パラメータによってどの地域のストア（以下、ロケールと表記）からデータを入手するかを指定していましたが、このパラメータは ECS 4.0 では廃止されました。これに代わり、データを取得したいロケールに対応したエンドポイントにリクエストを送信することにより、必要なデータを取得できるようになりました。各ロケールにはそれぞれ別のエンドポイントが設定されています。例えば、JP ロケールに対するリクエストの場合、エンドポイントは <http://ecs.amazonaws.jp/onca/xml> を指定する必要があります。

ECS 4.0 へ移行作業をするにあたり、アプリケーションが適切なエンドポイントにリクエストを送信するよう設定を行っていただく必要があります。以下の表は、REST リクエスト用のエンドポイントの一覧表となります。

ロケール	REST エンドポイント
CA	http://ecs.amazonaws.ca/onca/xml?Service=AWSECommerceService
DE	http://ecs.amazonaws.de/onca/xml?Service=AWSECommerceService
FR	http://ecs.amazonaws.fr/onca/xml?Service=AWSECommerceService
JP	http://ecs.amazonaws.jp/onca/xml?Service=AWSECommerceService
UK	http://ecs.amazonaws.co.uk/onca/xml?Service=AWSECommerceService
US	http://ecs.amazonaws.com/onca/xml?Service=AWSECommerceService

それぞれ、HTTPS エンドポイントもご用意しています。例えば、JP 用の HTTPS エンドポイントは、
<https://ecs.amazonaws.jp/onca/xml?Service=AWSECommerceService>
 となります。

SOAP リクエストを行う場合は、使用するエンドポイントに正しくリクエストを送信できるよう、適切な WSDL を使用する必要があります。

3 主要パラメータ対応表

以下の表は、ECS 3.0 と ECS 4.0 で使用される主要パラメータの対応表となります。

ECS 3.0 REST	ECS 3.0 SOAP	ECS 4.0
dev-t	devtag	AWSAccessKeyId
t	tag	AssociateTag (オプション)
f	-	Style (オプション、REST のみで使用)
ct	-	ContentType (オプション、REST のみで使用)
type	type	ResponseGroup (オプション)
-	-	Version (オプション、REST のみで使用)
-	-	Operation

詳細な情報については、

<http://docs.amazonwebservices.com/AWSEcommerceService/2007-01->

[17/PgOperationsCommonParameters.html](#)

(英語) をご参照ください。

4. オペレーション対応表

以下の表は、ECS 3.0 と ECS 4.0 でご提供しているオペレーションの対応表と、各オペレーションに必要なパラメータをまとめたものとなります。ECS 4.0 オペレーションとパラメータに関するより詳細な情報については、Amazon E-Commerce Service Developer Guide (英語) をご参照ください。

ECS 3.0	ECS 4.0 オペレーション	必須パラメータ
ActorSearch	ItemSearch	SearchIndex, Actor
ArtistSearch		SearchIndex, Artist
AuthorSearch		SearchIndex, Author
BlendedSearch		SearchIndex=Blended, Keywords
BrowseNodeSearch		SearchIndex, BrowseNode
DirectorSearch		SearchIndex, Director
KeywordSearch		SearchIndex, Keywords
ManufacturerSearch		SearchIndex, Manufacturer
PowerSearch		SearchIndex, Power
TextStreamSearch		SearchIndex, TextStream
AsinSearch		ItemLookup
UpcSearch	SearchIndex, IdType=UPC, ItemId	
ExchangeSearch	SellerListingLookup	SellerId, IdType=Exchange, Id
MarketplaceSearch=listing-id		SellerId, IdType=Listing, Id
MarketplaceSearch=keyword	SellerListingSearch	SellerId, Title
SellerSearch		SellerId,
ListManiaSearch	ListLookup	ListId, ListType=Listmania
WishlistSearch		ListId, ListType=WishList, ListId
SellerProfile	SellerLookup	SellerId
SimilaritySearch	SimilarityLookup or ItemLookup	ItemId
TransactionDetails	TransactionLookup	TransactionId
ShoppingCart=add (to	CartCreate	Items, Quantity

create)		
ShoppingCart=add (to add)	CartAdd	CartId, HMAC, Items, Quantity
ShoppingCart=modify	CartModify	CartId, HMAC, Items, Quantity, Action, CartItemId
ShoppingCart=remove		
ShoppingCart=clear	CartClear	CartId, HMAC
ShoppingCart=get	CartGet	CartId, HMAC

5. 移行に関する追加情報について

このガイドに加えて、以下のリソースを現在の Web サイトまたはアプリケーションを ECS 3.0 から ECS 4.0 へ移行するにあたっての参考資料としてご利用いただけます。

- [AWS Resource Center \(英語\)](#)

AWS Developer Connection Web サイト内のこのカテゴリでは、ECS 4.0 で動作するアプリケーションと Web サイトをどのように構築するかを理解できる ECS コードサンプル、テクニカルドキュメントならびにその他のリソースへのリンクをご案内しています。

<http://developer.amazonwebservices.com/ecs/resources>

- [Amazon E-Commerce Service Developer Guide \(英語\)](#)

この開発者ガイドは、Amazon ECS 4.0 の完全なマニュアルとなります。開発者ガイドは、AWS Resource Center から入手いただけます：

<http://developer.amazonwebservices.com/connect/kbcategory.jspa?categoryID=19>

- [ECS フォーラム \(日本語・英語\)](#)

このガイドをお読みにになり、リソースセンターに目を通した上で、質問がございましたら、Amazon ECS フォーラムに質問をお寄せください。こちらは、日本語版および英語版が用意されています。：

日本語版：

<http://developer.amazonwebservices.com/connect/forum.jspa?forumI>

D=19

英語版：

<http://developer.amazonwebservices.com/ecs/forums>